

小布施町の皆さまへ

まちづくり
政策提案集

大宮とおる

信頼と挑戦

共に創る小布施の未来へ

討議資料



目次

はじめに 2

プロフィール 3

わたしの強み 4

基本姿勢 5

まちづくり政策提案 7

はじめまして、大宮とおるです。

私は、都市計画を学ぶ大学生だった 15 年前に、はじめて小布施町を訪れました。

それ以来、この町が積み重ねてきたまちづくりの歴史やその可能性に魅了され、私自身もその一翼を担いたいと思い、行政、民間、住民など、様々な立場から、小布施町のまちづくりに携わらせていただきました。

その中で、多くの町民の皆さんにお世話になり、助けていただきました。

「未熟な私を育てていただいたこの町に恩返しをしたい。」

この思いが、今の私の活動の原動力になっています。

コロナ禍から日常を取り戻し、日本が、世界が大きく変化している今。変化の激しい時代にあっても、小布施町は、これからもさらにその魅力を広げ、地域の力を生かせる可能性がある町だと確信しています。

町民の皆さんのお気持ちに寄り添い、貪欲に挑戦し続け、町民の皆さんと共に創る町政の実現に向け、私の持てる力のすべてを尽くして、小布施町の発展のために取り組んでまいります。

大宮 透

大宮とおるプロフィール

おおみや とおる

1998 年山形生まれ、群馬県高崎市育ち
群馬県立高崎高等学校卒業

- 2007年 東京大学に入学（工学部で都市計画を専攻）
- 2009年 日米学生会議に参加し、初めて小布施を訪れる。
- 2011年 東京大学大学院に進学し、住民参画のまちづくりについて研究。
陸前高田市にて地域住民とコミュニティカフェを立ち上げるなど、
東日本大震災後の東北で、復興支援活動に従事。
- 2012年 大学院在学中に、「小布施若者会議」の立ち上げに参画。
- 2013年 若者会議をきっかけに、小布施町に移住し、町を拠点にし
ながら、全国の自治体の政策づくりに従事。
小布施町では、非常勤特別職の政策推進担当として、若者
が集まるまちづくりや地方創生推進事業、総合計画の策定、
台風 19 号災害からの復旧・復興などに携わる。
- 2020年 小布施町役場入庁。総務課長、企画財政課長などを担当。
- 2024年 9 月に退職し、現在に至る。

その他

趣味はスポーツ観戦（特に野球好き）や音楽鑑賞。
2児（娘、息子）の子育て中。



わたしの強み

1.

小布施町への情熱

私は、この町を形づくってきた小布施人に惚れ込んで単身で移り住み、人生をかけて、町のために働いてきました。小布施町に対する情熱は、誰にも負けない自信があります。

2.

若さと柔軟性

県内で一番若い首長として活動することで、小布施をさらに全国に発信できると考えています。また、人と話すことが大好きで、その対話の中から、柔軟に自分の行動を変えることができます。

3.

即戦力

都市計画を学んだあと、小布施のまちづくりの現場で、中核的な役割を担ってきました。町や町役場の課題を把握したうえで、即戦力として、すぐに町政を前に進めることができます。

4.

外とのパイプ

これまで全国の自治体や国、県などの機関と仕事をし、全国に幅広いネットワークがあります。小布施町のPRや、新しい財源確保にすぐに動くことができます。

5.

広い視点

全国のまちづくりの現場を見てきたからこそ見える小布施の魅力や課題があります。守るべき小布施らしさと、変化するべきことを見極め、取り組むことができます。

6.

子育て世代であること

妻と、2児の子どもを育てる父親として、地域で暮らし、同世代と交流しています。子育て世代の悩みを知り、行政の取り組みに生かすことができます。

信頼と挑戦 共に創る小布施の未来へ

「すべての小布施町民」の皆さまと共に

先祖代々、小布施で暮らし、この土地を守り引き継いできた人。
縁あって小布施に移り住み、この町が新しいふるさとになった人。
小布施には、様々なご縁によって、今この町に生きる町民の方たちがいます。

そのすべての小布施町民の想いや願いを大切にし、暮らしを支え、未来に希望を持てる町を創ること。

日々の暮らしで困っていることに真摯^{しんし}に向き合い、その改善に一生懸命取り組むことを基本としながら、未来に向けた新しい投資にも、果敢に挑戦し続けること。

私は、すべての小布施町民の皆さまとともに、そんな町政を実現してまいります。

3つの基本姿勢

信頼

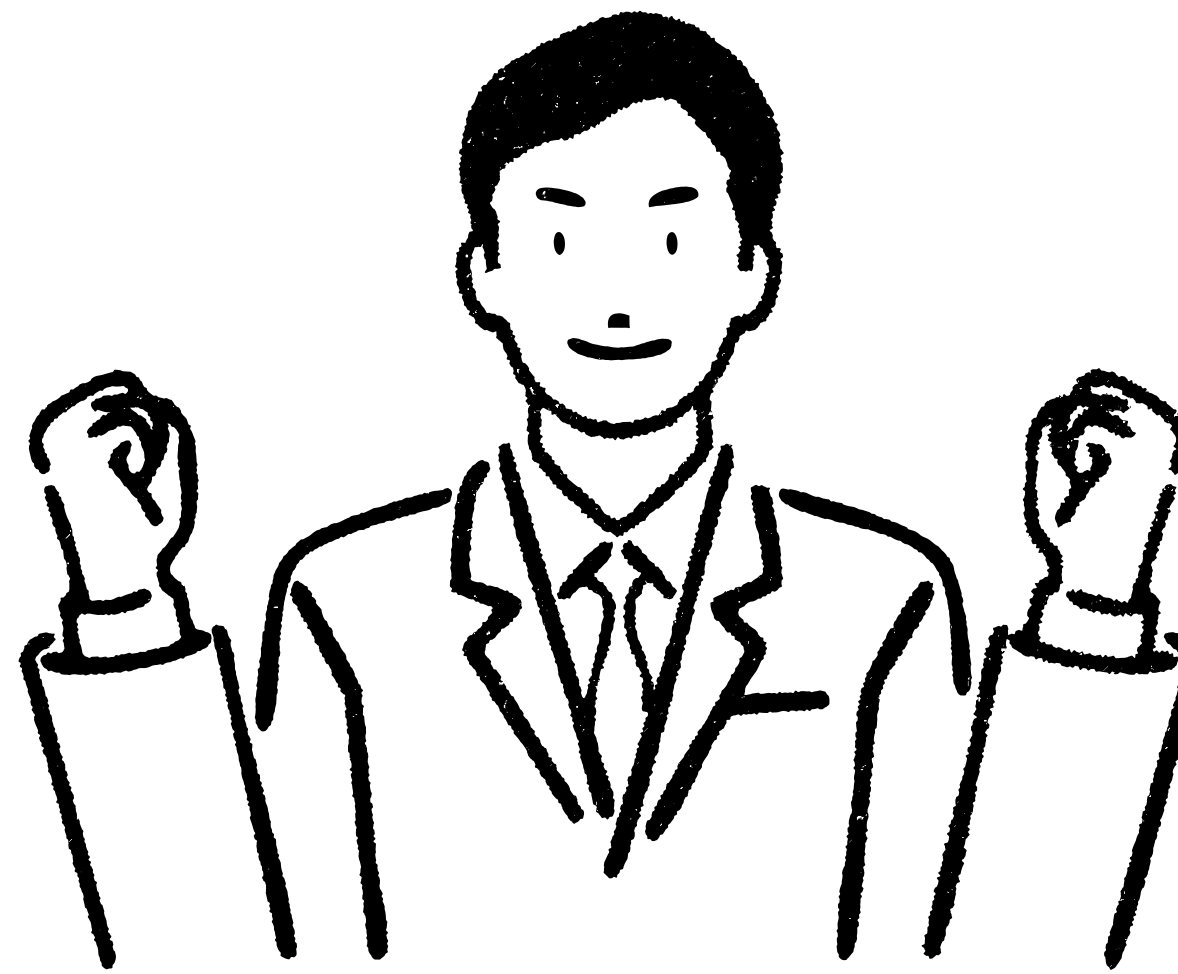
町民に寄り添い、信頼される町政



町民の皆さんと常日頃から交流し、困りごとに寄り添い、その解決策を模索し続ける姿勢を大切にすることで、信頼され、身近に感じていただける町政の実現を目指します。

挑戦

常に挑戦し続け、誇りをもてる町政



小布施町が大切にしてきた価値観を引き継ぎながら、常に未来に投資し、新たなチャレンジを続けることで、町民の皆さんが将来に希望と誇りをもてる町政の実現を目指します。

共創

情報を共有し、共に創る町政

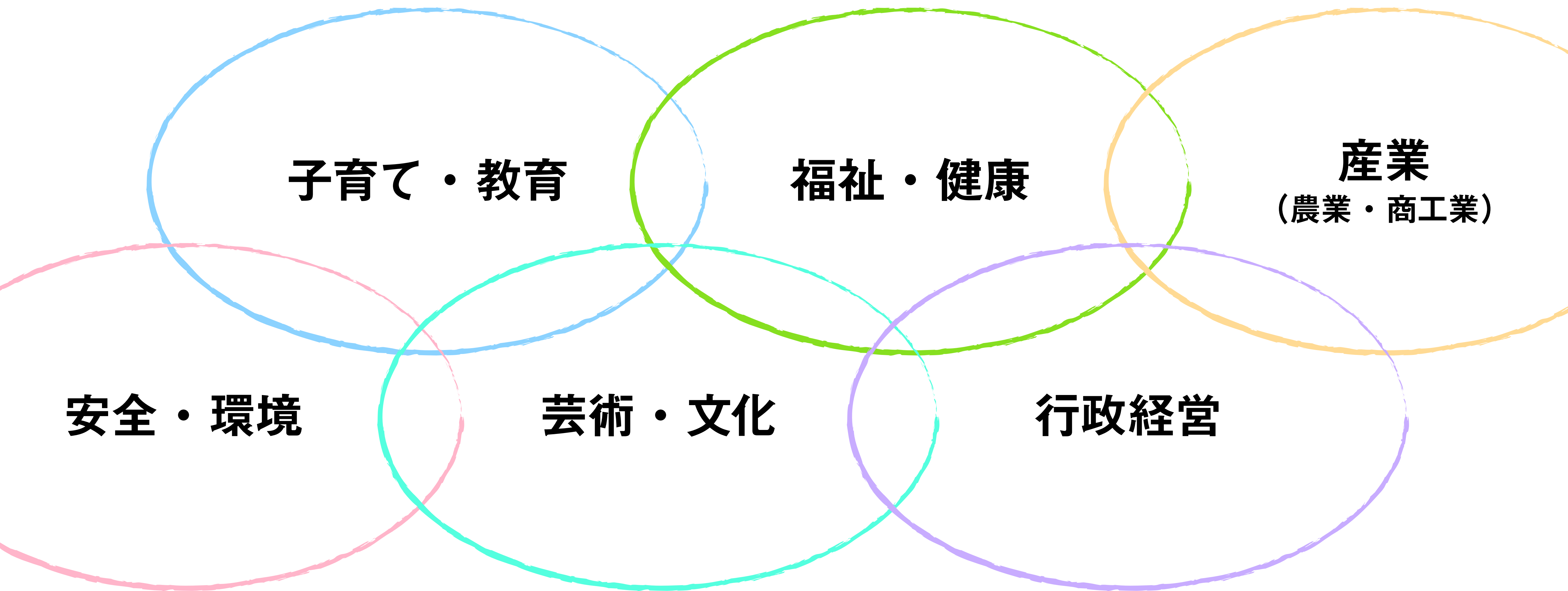


町がもつ様々な情報を可能な限り共有し、町民や町内事業者の皆さんはもちろん、町外にお住まいの小布施ファンの皆さんとともに、オール小布施で取り組む町政の実現を目指します。

まちづくり政策提案

今年9月以降、延べ100回を超える対話集会や意見交換会を開催し、町の皆さまから、いま困っていることや悩み、町に期待すること、たくさんのお声をいただけてきました。

皆さまから寄せていただいたお声や、町政運営の経験をもとに、
私に取り組んでいきたい政策をご紹介します。



安心して、子育てできるまちをつくる

課題

両親ともに共働きの世帯が増えていることに加え、核家族化が進み、子育てを親戚に頼れない家庭が増えています。子育て世帯が、働き続けながら、安心して子育てできる受け入れ体制を早急に整えていく必要があります。

安心して子育てできる環境づくり

育休退園の廃止

複数の子どもを育てる世帯が、働きながら安心して子育てできるよう、育休中に上の子が2歳以下である場合、家庭での保育をお願いする「育休退園」の基準を廃止し、同じ園で子どもを預け続けられる環境を整えます。

待機児童ゼロの実現

町立の子ども園・保育園や、小学校の放課後児童クラブの受け入れ体制を強化し、民間事業者とも連携しながら、待機児童ゼロを実現します。

保育園の早期建て替え

子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを進めるために、つすみ保育園の建て替えを早期に実現します。

安心して、子育てできるまちをつくる

課題

中学生以降に急増する教育費の家計負担、中学校の部活動が地域移行したことに伴う指導者確保など、中学生以上の子育て世帯を取り巻く悩みが多くあります。

教育環境の充実

中学校体育館の エアコン整備

ホール機能も併設する中学校体育館のエアコンをはじめ、不具合が指摘されている学校関連施設の整備を優先的に進めます。

地域クラブ（部活動）の 指導者確保

中学生が町内で放課後の時間を過ごせるよう、地域クラブの指導者確保に重点的に取り組みます。

中学校給食費の無償化

中学生以降に急増する教育費の家計負担を軽減させるため、中学校給食費の無償化の段階的な実現を目指します。

子どもの学ぶ力と生きる力を、地域全体で育む

課題

「これからも小布施で子どもを育てたい」と思っていたくために、教育のさらなる充実が欠かせません。また、子どもたちが、時代の変化に対応しながら社会で生き生きと活躍するためには、教育内容や学習支援の在り方を見直していく必要があります。

小学校低学年からの学習・不登校支援の強化

地域と連携した、探究学習・
体験学習の充実

低学年からの学習支援体制の充実

「読み書きそろばん」と言われるように、社会で自立して生きていくうえで、基礎学力を適切に習得することは重要です。特に小学校3年生を境に、基礎学力の格差は大きくなる傾向があり、早期の対策がその後の学力格差の縮小につながります。すべての子どもが「わかった!」という喜びを知り、主体的に学び続ける力や意欲を持てるよう学習支援に取り組めます。

不登校支援の強化

近年、小中学校で不登校となる子どもの数が増え、町でもその支援に取り組んでいます。不登校となる子どもたちの背景や要因を調査するとともに、現在の町の取組をさらに進め、すべての子どもに学びの機会を保障します。

幼児期から中学生卒業までの期間を通じて、小布施ならではの豊かな体験を通じて学ぶことができる機会づくりを推進します。

福祉・健康

住み慣れた地域で、 いきいきと暮らし続けることができるまちに

課題

小布施町でも高齢化が進み、高齢単身世帯数は今後も増加していくことが見込まれます。さらに、1970年代以降に多くの団地開発を行ってきた小布施町では、定年退職後に農業などの地域での生業を持たないご高齢の方が増えつつあります。ご高齢になっても、いきいきと、安心して暮らし続けることができる仕組みを整備する必要があります。

高齢者の 日常生活支援の強化

おひとりでお住まいのご高齢の方のごみ出しや雪かき、買い物など、日常的な暮らしを地域で支え、地域で住み続けられる仕組みづくりを進めます。

いくつになっても活躍 できる仕組みづくり

ご高齢の方が働ける多様な雇用の場づくり

須高シルバー人材センターや町社会福祉協議会と連携しながら、ご高齢の方が働ける雇用の機会確保を進め、何歳になっても生き生きと働き続けられる地域づくりに取り組みます。

有償ボランティアの拡充

雇用の場だけでなく、有償ボランティアの場を拡充し、地域で役割を持ちながら活躍し続けられる仕組みづくりを進めます。

誰もが移動しやすい 地域の公共交通

高齢者の移動手段は大きな課題です。新しい地域公共交通のあり方として、各地で導入が進んでいるデマンドバスの実証導入などを進め、免許返納を行った高齢者でも町内各所に移動しやすい地域づくりを進めます。加えて、地域助け合い型の移動・外出支援など、支え合いの活動も町として継続的に支援します。

住み慣れた地域で、 いきいきと暮らし続けることができるまちに

課題

障がいのある子どもをもつ方、身体的・精神的な事情から困難に直面している方やそのご家族の中には、今後も地域で暮らしていく上で様々な不安や困難を抱えている方がいます。当事者の皆さんが悩みを気軽に共有できる場づくりや、適切な支援につなげていくことが必要です。

家族支援の強化

身体的・精神的な事情など、さまざまな理由で困難を抱える方を支える家族が孤立することなく、互いに支え合える環境を整えます。そのために、家族会の発足や活動の継続を町として積極的に支援します。また、家族が抱える課題を行政と共有し、解決策を共に考えるため、町が率先して定期的な意見交換の場をつくります。

心の健康づくりの支援強化

うつ病をはじめとする心の病気は、いつ、誰にでも起きるうるものです。町民の皆さんの心の健康づくりを支援するために、相談体制の拡充や適切な支援先との連携など、様々な機関が連携して支援する仕組みづくりを進めます。

身体 の健康づくりの推進

ライフステージに応じた健康づくりを産学官民が連携して支援し、検診率の向上や健康づくりプログラムへの参加促進を図ります。さらに、健康診断などの各種データを活用して生活習慣の改善や予防活動を推進し、住民一人ひとりに合った支援を提供します。

産業（農業・商工業）

魅力ある地場産業を、さらに輝かせる

課題

地球温暖化により、春先の凍霜害や新たな病虫害、台風災害などが頻繁に発生する時代になり、これまでにない対策が求められています。町の基幹産業である農業を守り支えるためには、生産基盤の安定化や、さらなる販路拡大を進める必要があります。

安心して農業を続けられる環境づくり

地球温暖化対策の強化

凍霜害対策、虫害対策のかかる研究、早生種への転換支援、災害時の収入保障保険への補助など、農業者のニーズを踏まえなら、地球温暖化時代の農業を支える取り組みを重点的に推進します。

農業生産基盤の整備

土地改良区の灌水設備の自動化による農家の皆さんの負担軽減を支援します。また、新たな生産設備や苗木などへの補助を検討します。

農産物の販路拡大

農産物の販路拡大に向けて、農家団体がイベント等に出店する際の費用を補助したり、新たな販路の開拓にともに取り組むなど、販路拡大の強化に取り組みます。また、ふるさと納税の仕組みを活用して、より多くの農産物を全国に届ける取組を推進します。

産業（農業・商工業）

魅力ある地場産業を、さらに輝かせる

課題

農商工すべての分野で、人手不足が深刻化しています。また、秋を中心としてにぎわいを見せる小布施ですが、冬は人出が少なくなるなど、様々な課題もあります。

事業者の人材確保の支援

町内事業者の 採用支援の強化

町内事業者の人手不足の解消に向けて、繁忙期の異なる業種連携を促進したり、地域全体として求人情報を発信するなど、必要な支援に取り組みます。また、「小布施町で働く」ことの良さを積極的にPRします。

地域おこし協力隊 制度の活用

事業主の右腕人材や新規事業を行う人材確保を支援するため、地域おこし協力隊などの公的な制度を希望する民間事業者が活用できるよう仕組みを整備します。

冬の誘客と内需拡大

閑散期である冬ならではの小布施町の魅力を発信するとともに、冬場に使える商品券の発行や冬場のイベント誘致に取り組みます。また、近隣地域と連携して外国人観光客の誘客促進を図ります。

産業（農業・商工業）

魅力ある地場産業を、さらに輝かせる

課題

町の中心部を通る国道 403 号線について、整備が進んでおらず、長い間空地の状態になっている土地もあります。また、街なかのにぎわいが、農村部をはじめとする町全体に広がってほしいという切実な声もいただいています。

国道 403 号線の早期整備

国・県と連携し、国道 403 号線の整備を早期に実現し、街中エリアの更なる魅力化を進めます。そのために、町が率先して関係者との対話の場をつくり、関係者がイメージを共有して事業を進める体制づくりに取り組めます。

「小布施まちじゅうホテル構想」の推進

小布施ならではの暮らしを体験できる滞在を提供できるよう、大規模なホテル誘致ではなく、農村部を中心とした民泊施設の新設を推進し、町全体の活性化に取り組めます。また、民泊運営を行う上でのハードルを低くするため、外国語話者への顧客対応 支援や、鍵の受け渡しの代行支援、滞在中の体験プログラムの開発などに取り組む、町全体で一つのホテルとなるような仕組みづくりを進めます。

安心して暮らせる地域を、未来につなげる

課題

少子高齢化が進み、町内で今後空き家が増えていくことが予想されます。特に、農村部や団地等では少子高齢化が顕著に進んでいます。

空き家対策の強化

既存住宅を有効に活用し、既存集落への移住促進による地域コミュニティの活性化を図るため、各地区に「空き家把握支援員（仮称）」を配置し、町として空き家の情報を適切に把握し、空き家所有者の意向や悩みに寄り添いながら活用が進むよう支援します。

高齢化や人口減少の著しい自治会への移住促進

少子高齢化が顕著に進んでいる農村部や団地等の地区について、空き家対策と合わせて、優先的に移住促進対策の強化を進め、持続可能な地域づくりにつなげます。

安心して暮らせる地域を、未来につなげる

課題

地球温暖化が進み、局所的なゲリラ豪雨や台風が頻発化するなど、災害の発生を前提としたハード・ソフト両面からの対策が求められています。

防災対策の強化

太陽光発電・蓄電池システムの設置推進

地球環境にやさしい電気を町内で発電することに加え、災害時の電力確保を目的として、一般家庭や公共施設、自治会 公会 堂における太陽光発電や蓄電池システムの設置を更に進めます。

ゲリラ豪雨などの雨水対策の推進

雨水排水処理設備としての水路敷設を着実に進め、雨水が適切に処理できるインフラ構築に取り組みます。

消防団の定数確保

消防団は、火災時の消火や災害時の対応など町の危機に対応する重要な組織です。今後も消防団が安定した体制を維持できるよう、新たな担い手の確保に町が主体的に関わり、とともに、団員の処遇改善に取り組みます。

安心して暮らせる地域を、未来につなげる

課題

観光客が多くなる秋の時期には、交通渋滞による車両事故も発生しています。また、社会情勢の変化により、犯罪抑止に向けた防犯対策の強化が課題となっています。

交通渋滞対策の推進

専門機関と連携し、国道 403 号線や小布施橋、IC インターチェンジ付近など、町内で交通渋滞が発生する道路の交通量調査などを行い、交通渋滞の緩和策について検討を進めます。

公共防犯カメラの設置数の拡充

町が設置する防犯カメラを拡充し、町全体の防犯力の向上につなげるとともに、犯罪発生時の捜査協力に活用します。

安全・環境

安心して暮らせる地域を、未来につなげる

課題

地球温暖化の根本原因である温室効果ガスの排出抑制や循環型社会の実現に向けて、地球環境に優しく、町民の暮らしやすさにもつながる取り組みを進める必要があります。

地球環境に優しい暮らしづくりの推進

ごみ回収方法の見直し によるリサイクルの推進

民間事業者と連携し、ビンやカンなどの資源物を日常的に回収できる拠点をつくることで、自治会の環境美化にかかる負担軽減と、リサイクルやリユースのさらなる推進に取り組みます。

木質バイオマス による熱利用の推進

須高地域で連携し、地域で生産される木質バイオマスを活用したボイラー利用を促進します。

住宅性能向上に つながるリフォーム支援

ペレット・薪ストーブ、断熱性能や居住性能の向上につながる住宅リフォームなど、暮らしや地球環境に配慮した次世代型の住宅づくりや改修を支援します。

町の歴史と文化を伝え、次世代に継承する

課題

おぶせミュージアムや高井鴻山記念館などの文化施設の来館者数は減少傾向にあり、最も身近な町民の皆さんの利用割合も低い状況があります。また、小布施の人たちが大切にしてきた文化や歴史を継承し、次世代に伝えていく必要があります。

町内の芸術・文化施設の町民無料化

おぶせミュージアム・中島千波館や高井鴻山記念館など、現在有料となっている町立の文化芸術施設の町民無料化を検討し、芸術文化に気軽に親しめる環境づくりを進めるとともに、町民応援団による誘客策を推進します。

町の歴史や文化財研究の強化

町内に眠る古文書や地域に伝わる伝承などを掘り起こし、町の歴史として整理・発信していくことで、小布施ならではの歴史的資源を次世代に伝え、町の様々な取り組みにも活用します。また、各地区で行われている保存会の活動など映像や文書の記録で残し、次世代に伝えます。

花のまちづくりの推進

オープンガーデンや沿道花壇など、町民の皆さんがつくり、つなげてきた花づくりの文化や景観まちづくりを継承し、取組を積極的に発信するとともに、新たな担い手づくりに取り組めます。

持続可能で、笑顔あふれる町政を実現する

ふるさと納税のさらなる拡充 ～寄付額を4年で10億円以上に～

小布施町にとって、ふるさと納税による町外在住の応援団からの寄付金は、貴重な財源となっています。返礼品だけに頼らない、ふるさと納税の本来の趣旨に合った寄付を増やすよう努めるとともに、地場産業の振興や町の財源確保に向けて寄付額の向上に努め、4年以内に、ふるさと納税全体の寄付額が10億円以上となることを目指します。

職場環境のさらなる改善

育児や介護にかかる休暇がとりやすい職員体制や、職員同士や町民の皆さまとのコミュニケーションを大切にした職場環境づくりに努め、職員の笑顔溢れる、風通しのよい町役場づくりを進めます。

デジタル技術の 活用

マイナンバーカードを利用して全国のコンビニから住民票が取得できる「コンビニ交付」の実現や、公共施設・体育館のオンライン予約システムの導入など、町民の皆さんが利便性を感じられるデジタル技術の活用を進めます。

自治会の負担軽減

役場の担当課ごとに自治会にバラバラにお願いしている行事日程を年度当初に棚卸し、効率化を図るとともに、住民組織の役員や行事の見直しに取り組み、自治会負担の軽減を進めます。

**これからも町民の皆さまとの対話を続けながら、
小布施の未来につながる政策を考えてまいります。**

大宮とおる後援会事務所

〒381-0201 長野県上高井郡小布施町小布施557

Email

info@omiyatoru.jp

HP

www.omiyatoru.jp